

松くい虫被害の伐倒くん蒸処理方式の検討

1 背景・目的

防災林として重要な海岸松林においては、未だに松くい虫被害により集団的な枯損が発生している。被害のまん延を防止するため、被害木を伐倒後、集積、ビニルシートで被覆、殺虫剤でくん蒸（伐倒くん蒸処理）を行い、防除を実施している。同手法には、シートを上から被せて被覆する「上面被覆式」（通称「かぶせ式」、写真1）と被害木全体を包み込む「全面被覆式」（通称「あめ玉式」、写真2）がある。本研究では両方式の作業効率や駆除効果を比較・検討する。



写真1 上面被覆式（かぶせ式）



写真2 全面被覆式（あめ玉式）

2 技術のポイント

- (1) 今回の調査地においては、上面被覆式では全面被覆式と比べ、被覆内部の殺虫剤濃度が低下している(図)。
- (2) 同じ条件下で両方式の作業を実施したところ、被害木1本あたりの作業時間は同程度である。

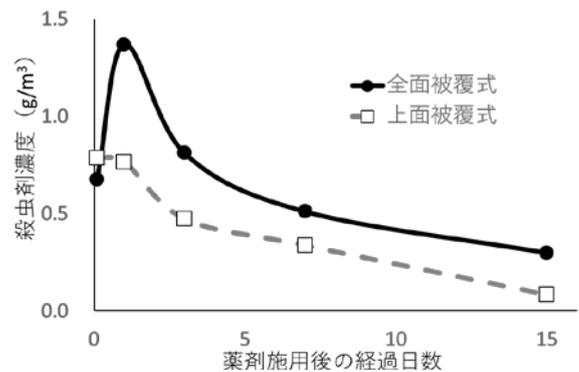


図 殺虫剤濃度の変化

3 成果の活用と残された問題点

- (1) 全面被覆式は、当県の施工条件（風が強い時期の施工）において効果的な手法である。
- (2) 上面被覆式は、1枚のシートで処理できる材積が大きいため、風が弱く被害木が集中している場所では効果的な手法である。

問合先：資源開発部 TEL 076-272-0673
担当者：江崎功二郎

※本研究は、(国研) 森林研究・整備機構森林総合研究所交付金プロジェクト (課題番号 201902) により実施した